

日本鉄鋼協会記事

理 事 会

第3回理事会 開催日：5月20日。出席者：藤本会長
他 21 名。

1. 第2回評議員会報告 4月30日文書により開催し
評議員補欠選挙が行なわれ、平井、大元、立花、鍵山の
各候補がいずれも当選された旨報告がなされた。

2. 第8回X線材料強度に関するシンポジウム協賛の
件

結晶成長国内会議協賛の件

日本規格協会主催 JIS 火なし圧力容器、多層巻円筒、
熱交換器、ボイラ説明会協賛名義使用許可の件
以上それぞれ協賛が決定。

3. 編集委員委嘱の件

候補 阿部秀夫君、武内朋之君を委嘱することを
決定。

企画委員委嘱

候補 小林 正君

研究委員委嘱

水野実君、水井清君、長谷川太郎君委嘱することを決
定。

日本学術会議第5部 金属、材料、自動制御各研究連
絡委員会委員推薦

金属：五弓勇雄君、中村正久君

材料：荒木 透君

自動制御：磯部 孝君

以上決定した。

5. 鋼管マニュアル出版の件

出版することを決定。

6. 東大生研試験溶鉱炉第20次操業計画の件

案どおり操業計画が決定した。

企 画 委 員 会

第3回委員会 開催日：5月19日。出席者：俵委員長
他 7 名。

1. 国際鉄鋼技術委員会(仮称)設立について

IISIにおける技術問題の審議機関がわが国にないので
問題の処理、運営がうまく運ばない状態であり、本会に
国際鉄鋼技術委員会を設立し審議機関とすること、また
当委員会は窓口である鉄連国際委員会のバックアップを
する形を取るということで設立案が企画委員会として承
認された。

なお ECSC でも鉄鋼技術問題を取りあげているが、
その窓口である政府より問題提起を依頼される可能性が
あるが、その場合も同技術委員会で審議することが企画
委員会として承認された。

研 究 委 員 会

第2回委員会 開催日：5月19日。出席者：今井委員
長、他 25 名。

今委員会は新委員長および新理事を迎えての第1回目
の委員会であり下記の議事検討を行なった。

1. 新委員長、新理事紹介

新委員長 今井光雄 川鉄常務取締役
新理事 伊藤伍郎 金材技研腐食防食研究部長
住友元夫 住金常務取締役
高村仁一 京大工学部長
出口喜勇爾 日特研究所長

2. 報告事項

第13回技術講座小委員会報告のほか6件の報告がなさ
れた。

3. 審議事項

今後の研究委員会の運営方針を含める3件の審議を行
なつたが今後の運営方針については各委員から当委員会
が鉄鋼の共同研究の大きな推進力となるべくより一層の
積極的な方針をととの意見が述べられた。

編 集 委 員 会

第2回運営委員会 開催日：5月20日。出席者：荒木
委員長、他 9 名。

1. 委員委嘱について

運営委員会として、阿部秀夫氏に和文会誌分科会幹事
を、武内明之氏に欧文会誌委員をお願いすることになつ
た。

2. トンプソン賞規程について

規定の事務局案に基づき検討した結果、一部修正の上
企画委員会にはかることになつた。

第3回和文会誌分科会

開催日：5月9日。出席者：荒木主査、他 12 名。

1. 論文審査報告

15件の報告があり、掲載可10件、修正依頼6件。

2. 講演大会における討論処理について

講演大会における一般講演に対する討論集録の会誌掲
載希望が会員よりあり、検討した結果、価値のある討論
は可能な限り掲載し、また投稿論文には講演時の討論を
末尾に選定掲載することになつた。

3. 原稿分類について

講演大会講演分類ならびに索引項目などに関連させた
分類の事務局案により検討した。

第4回和文会誌分科会 開催日：6月6日。出席者：

荒木主査、他 15 名。

1. 論文審査報告

7件の報告があり、掲載可5件、修正依頼2件。

2. 学術会議について

学術会議の活動の決定事項を鉄と鋼に掲載し会員に周
知することになつた。

3. 鉄と鋼アンケートについて

先に行なつた鉄と鋼アンケートの集計に基づき掲載記
事についていろいろな方面から検討した。

第3回欧文会誌分科会 開催日：5月28日。出席者：

橋口主査、他 14 名。

1. 3件の論文につき審査報告がなされた。

2. 投稿勧誘論文として第77回講演大会より20件が推
薦され、そのうち17件につき勧誘することが決まつた。

そのほかに5件の論文を勧誘することに決めた。

3. Letters to the Editor の欄を新設することが決まった。

第2回講演大会分科会 開催日: 5月14日。出席者: 草川主査, 他 19 名。

1. 第78回講演大会特別講演について

前回分科会において審議された3テーマのほかに, 中国四国支部独自でも案が検討されていたので, 支部実行委員会開催にあたりその案について討議がなされた。

2. 講演分類について

講演募集, プログラム編成における分類について, 大・中・小3分類案により検討した。部分修正後, 過去23年の講演を分類案によりチェックし, 次回再検討することになった。

第2回出版分科会 開催日: 5月21日。出席者: 佐藤主査, 他 9 名。

1. 「鉄鋼製造法」について

分科会として出版企画書の最終的調整を行ない, 鉄鋼製造法編集委員会などを検討した後次回編集運営委員会に提出することとした。

共同研究会 鋼板部会

第27回厚板分科会 開催日: 5月15, 16日。出席者: 有村主査, 他 61 名。

1. 工場操業状況

昭和43年12月, 44年1月, 2月分の各工場操業状況を一覧表として交換し合った。

2. 各社厚板工場要員比較

あらかじめ小委員会にて取決めた形式に従い, 各厚板工場より資料が提出された。資料は会議開催の15日前に各委員に配布され, 当日は説明はごく簡単にしない討論に重点を置いた。

会議第1日目は出席者全体による討論とし, 2日目は3段ロールの工場, 4段ロールオンライン関係, 4段ロールオフライン関係と3会場にわかれて更に突込んだ討論を行なった。

補欠要員の考え方, 厚み測定機械化, 手入れ, 斉寸, ガス切りの機械化, 工程管理の自動化特に端末機の充実に討論が集中した。

第9回コールドストリップ分科会

開催日: 5月20日。出席者: 松田幹事代理, 他80名。

大阪地区で開催した。第1日目の午前は堺市臨港センターで, 「操業状況調査表」について各社より発表があった。今回は新しく調質圧延機の操業状況および酸洗の歩留について発表があった。第1日目の午後は日新製鋼(株)堺工場およびイゲタ鋼板(株)の酸洗ラインおよび冷間圧延機を中心に工場見学をした。

第2日目の午前は住友金属工業(株)和歌山製鉄所の会議室において, 「粗度管理」について各社より発表があり, 活発に議論された。午後は和歌山製鉄所の高炉, 分塊, 熱延, 酸洗, 冷延の見学を行ない, 有意義のうちに終了した。

条 鋼 部 会

第26回中小形分科会 開催日: 5月23, 24日。出席者: 中西主査, 他 94 名。

第26回中小形分科会は国光製鋼(株), 大和製鋼(株), 大鉄工業(株)の共催にて大阪・西成産業会館にて開催された。

今回のテーマ研究は, (1)表面疵および寸法精度の現状を改善策について, (2)ロール管理方式と使用状況, 自由研究として主に人員削減のための合理化例に関する報告があつた。

今回はテーマ研究, 自由研究ともにA, Bグループ分けしそれぞれのグループリーダーのもとで研究発表を行ない, 発表内容のまとめを行なう形式を取った。

研究会に引き継ぎ, 大和製鋼(株), 国光製鋼(株), 大鉄工業(株)の工場見学を行なった。

なお次回中小形分科会は44年秋神戸製鋼(株)(尼崎)で開催する予定である。

鉄 鋼 分 析 部 会

第14回発光分光分析分科会 開催日: 5月21日。出席者: 杉山主査, 他 26 名。

日本鉄鋼標準試料を用いる共同実験の結果報告が各社より発表された。標準試料の評価について, 次のような意見が出された。1. 共存元素の影響を補正する。2. スペクトル線別に層別して考える。3. 一次標準試料として使用することを前提に評価する。4. カーブにのるものとのらないものに分類し, のらないものについては原因を追求する。5. 繰り返し2回の定量値のバラツキを評価のメジャーとして利用する。6. 現行検量線法ならびに指定検量線法のdについて各所のデータを集約し評価の判断に供する。具体策の決定とそれに基づく作業を進め結果を次回提出することになった。繰り返し2回の定量値, 平均値と各試料の標準値における検量線のkを指定検量線法の場合について求め, 各所のデータを主査宛送付してまとめることになった。次回分科会は10月6日川鉄水島で開催予定。

第15回蛍光X線分析分科会 開催日: 5月22日。出席者: 川村主査, 他 41 名。

1. 定量法一元化の第2回共同実験の結果報告があつた。補正係数は前回より収れんしたが係数に幅があり, 実験値として取扱うことになったがこの値の実用的評価をするために第3回共同実験を行なうことになった。この実験には小委員会のメンバー以外の事業所もできるだけ参加することになった。第2回共同実験結果を用いた場合の他元素の補正係数の試算結果を3事業所が報告したが, 各所各様の結果であつた。今後は補正係数の求め方を明確化すること, 測定誤差を考慮すること, 試算データを増すことが必要であるという意見が出された。

2. JIS G 1204, 1254 の改訂に関するアンケート集約の結果

本質的改訂意見はなかつた。

3. コークス灰分組成の迅速分析, 粉体試料の蛍光X線分析の報告があり, これらについてはデータが更に出るのを待つことになった。

次回分科会は10月7日川鉄水島の前定。

第4回化学分析分科会 開催日：5月21日。出席者：新見主査，他 43 名。

1. 鉄鋼化学分析

(1) Si吸光光度法の分析精度向上のために試料はかりとり量と溶解酸量に関する共同実験を行ない，次回に結果を発表することになった。ISO法については自発研究を待つてJIS採否を検討する。

(2) Mn 0.7~17%Mn の4鋼種につき滴定法と吸光光度法の共同実験を行なうことになった。結果をみて高マンガン鋼への吸光光度法の採否を決める。

(3) P JIS 法に比較してISO法は感度，作業性に問題があり，JISには参考法のみで留めることになった。

(4) S ISO 法に対する検討結果が発表された。カートリッジの種類よりも実験操作条件が利くこと，条件を適当にすれば100%近い回収率になることが報告された。

2. 原子吸光分析

(1) 鑄鉄中の Mg 定量共同実験結果が報告された。

(2) 鉄鉱石の Al_2O_3 ， TiO_2 ，Pb 分析共同実験結果が報告された。

3. 鉄鉱石化学分析

JIS 法改訂意見が出された。次回詳細に検討することになった。

次回開催予定 7 月 29 日。

熱 経 済 技 術 部 会

第7回耐火物分科会 開催日：5月20，21日。出席者：吉田主査，他 25 名。

下記の議題に従い開催された。

1. 共通議題

(1) 均熱炉タイルレキュペレーターについて

(2) 均熱炉換熱室の設計および築炉上の問題点について

2. 自由議題

(1) 加熱炉の耐火物に関する研究

3. 工場見学

5月21日，日本ブライブリコ(株)茅ヶ崎工場を見学，不定形耐火物に関する欧米の現状と同社の研究の紹介が行なわれ，活発に討議を行なった。

計 測 部 会

第28回秤量分科会 開催日：5月20，21日。出席者：中沢主査，他 65 名。

1. コンペアスケールについて

コンペアスケールのまとめについて報告討議がなされた。

2. 各工程の秤量

各社より原料，製鉄，製鋼，圧延各部門の秤量の報告がなされた。

その他

電子管秤量機，秤量に関する改善研究，秤量機の検査保全などの議題が報告された。

品 質 管 理 部 会

第21回部会 開催日：5月7，8日出席者：辻畑部会長，他 77 名。

1. 事例発表および討論

(1) QCとコンピューター 5件

富士広畑，住金小倉，日新堺，東洋鋼板下松，川鉄千葉

(2) 手法事例 6件

八幡堺，神鋼神戸，富士室蘭，大同星崎，住金鋼管，トピー豊橋

(3) 外注管理 2件

八幡堺，神鋼神戸

2. 工場見学

日本製鋼(株)福山製鉄所

原 子 力 部 会

第4回部会 開催日：5月26日。出席者：湯川部会長 他 31 名。

1. 各小委員会経過報告

第1小委員会：1000万t製鉄所における電力を原子力発電により供給する経済的検討

第2小委員会：直接製鉄ワーキンググループより直接還元法に高温ガスを適用する検討

第3小委員会：高温ガス炉の調査報告

2. 高温原子炉開発について

本件につき政府に要望書を提出することを決定した。

3. 第4小委員会の設置について

熱変換器などの開発のため第4小委員会を設置することをきめた。

第3回第1小委員会 開催日：5月23日。出席者：松本委員長，他 25 名。

1. 第1次報告

1000万t製鉄所における電力消費量を算定しこれを原子力発電によつて供給する検討を行ない，共同原子力の在来プロセスに比較したメリットを見出した。

2. 今後の進め方

製造プロセスの各部門における電力利用の領域拡大を目指し，プロセス変換の研究を進め，更に原子力発電の有利性を向上せしめるため，WGを設置することとなった。

第5回第3小委員会 開催日：5月20日。出席者：吹田委員長，他 28 名。

1. 高温原子炉の基本構想

設計のワーキンググループが検討し，上記構想について討議した。

2. 開発スケジュール

設計ワーキンググループの作成法高温原子炉開発スケジュールについて検討した。

標 準 化 委 員 会

ISO 鉄鋼部会

第3回部会 開催日：5月13日。出席者：豊田部会長 他 19 名。

1. 報告事項

- (1) 第6回WG8国際会議出張報告
- (2) 昭和44年 TC17/WG 会議予定

2. 審議事項

(1) 昭和44年 ISO/TC17/WG 国際会議派遣会社選定について

(2) ISO/TC17/WG 4, WG12東京国際会議準備について

(3) ISO対策費について

第1回WG1分科会 開催日: 5月16日. 出席者: 古沢主査, 他 15 名.

1. 第3回 ISO 鉄鋼部会の報告が主査より行なわれた.

2. ISO 資料の検討

ISO/R 86 の改正案の内容について検討をした. これは以前に日本など各国より出された意見にもとづいて一部修正されたものである.

3. 「シャルピー衝撃試験における衝撃刃先の丸み半径の影響」について試験した結果が報告された. この結果に基づき現行JISの改正を考えるととなった.

4. 「引張試験における伸びの換算」についての試験報告の発表があった.

5. 今後の運営について

今まで ISO 資料はグループ別に分けて検討していたが, グループ分けはやめることになった. ただし, グループ別に主査の補助者を決め, その方にあらかじめ検討してもらうこととなった.

第7回 WG 4分科会

開催日: 5月6日. 出席者: 鈴木主査, 他 15 名.

第11回 TC17WG4 国際会議 (5月19日~22日, 於 Düsseldorf) における日本側から提案すべき事項の検討, 外国からの書面できている提案事項に対する日本側の態度について最終打合せを行なった.

1. 国際会議日本側出席予定者

宇野(大同), 徳梅, 平野(神鋼), 吉武, 大久保(日治)

2. 審議予定項目

- (i) 火焰および高周波焼入鋼
- (ii) 熱間成形パネ鋼
- (iii) ステンレス鋼
- (iv) 硫黄含有量 0.030/0.050 のはだ焼鋼
- (v) バルブ鋼
- (vi) 炭素鋼(焼ならしおよび冷間引抜状態)
- (vii) 冷間ヘッディング鋼
- (viii) 軸受鋼

第6回 ISO 鉄鋼部会 TC/WG10 分科会

(ISO 日本ボイラ委員会との合同会議)

開催日: 5月7日. 出席者: 郷原主査, 他 20 名.

1. TC17/WG10 および TC11/SC1 との next joint meeting に対する Japanese comment(案)について板・管・鍛鋼の各部門にわかれて討議した.

2. TC17/WG10 と TC11/SC1 の日本側委員会のそれぞれ進むべき方向について討議し, 今後の協調を申し合わせた.

データーシート部会

第3回伸び値と試験片寸法効果分科会 開催日: 5月

12日. 出席者: 山岡主査, 他 6 名.

1. 前回提出された各社手持ちデータを強度別に縦軸に $\log \epsilon$ 横軸に $\log \sqrt{A}/L$ をとり整理した結果, $\log \epsilon = n \log \sqrt{A}/L$ で表わされ, 40 kg/mm² の棒材, 板材について n の値が約 0.4 になり, オリバーの式に一致すると見做せることがわかった.

そこでそれらのデータを整理し発表できるようまとめることにした.

2. 追加試験……上記各社手持データのなかに 50 kg/mm² の溶接構造用耐侯性熱間圧延鋼材(SMA)がなく, また 60 kg/mm² のデータもないので下記の材料について次回分科会(6月30日)までに追加試験を行なうことにした.

○鋼種 SMA50……as rolled

SM58 ……as rolled

Q-T

○素材形状 板材, 棒材

○くり返し 5 チャージ

第30回普通鋼分科会 開催日: 5月19日. 出席者: 山岡主査, 他 21 名.

1. 報告事項

船体構造用高張力鋼国際規格に関する会議結果報告(日本海事協会)

2. 審議事項

(1) JIS G 3192 (H形鋼) の審議

鋼構造協会にて審議中の該JISにつき, 鉄鋼メーカー案の提出を求められたので案を作成した.

(2) 昭和44年度JIS見直し(規格協会委託分)の調査結果

当分科会で分担する7規格につき, 調査の結査次回より SS, SB, SM に関して審議を行なうこととなった.

第16回鋼管分科会 開催日: 5月13日. 出席者: 桑原主査, 他 21 名.

1. 特殊鋼鋼材規格分類体系の検討

鋼管分科会として特殊鋼鋼材規格分類体系に対する意見を検討した結果, 問題があるとの結論に達した.

2. JIS 鋼管規格(熱伝達用, 配管用)の検討

(1) 抗張力または硬度の制限について熱伝達用を対象とした検討

(2) SAW 鋼管の規格

(3) 低温用鋼管の衝撃試験

(4) 追加試験規定の取扱い

(5) STKM におけるC型試験片の検討

以上の検討が行なわれた.

3. ERW 鋼管ぐいの検討

鋼管ぐいの溶接部試験のあり方につき検討された.

第28回線材分科会 開催日: 5月29, 30日. 出席者: 有沢主査, 他 54 名.

第28回線材分科会は富士製鉄(株)室蘭製鉄所で開催された.

今回のテーマ研究は

(1) 品質向上, 能率向上に資する問題について
(2) 圧延減速機の保守管理について活発な研究成果の発表がなされた。

また次のテーマについて 担当会社よりアンケートまとめ報告があつた。

(1) 各社の工業テレビ使用状況について (富士製鉄釜石)

(2) 線材巻取方式および設備 (富士製鉄・室蘭)

(3) ロール折損対策について (八幡製鉄・光)

また研究会に引継ぎ富士製鉄(株)室蘭製鉄所の工場見学を行なった。

なお第29回線材分科会は44年秋川崎製鉄(株)水島製鉄所で開催する予定である。

.....

第4回 JIS みがき棒鋼原案分科会 開催日: 5月12日
出席者: 中村主査, 他 21 名。

下記の事項を討論した。

1. 標準寸法について

丸, 角, 六角および平の標準寸法を, 最終需要家の要望により一部変更した。

2. 寸法許容差について

ミクロン単位まで規定しても無意味だという意見が出たが, 原案どおりミクロン単位まで規定することになった。

3. 許容差の等級の適用について

原案に切削 4~6 級を加えることになった。

4. みがき棒鋼用鋼材の鋼種について

最終需要家およびみがき棒鋼メーカーの要望事項に基づき, 再度鉄鋼メーカーで検討することになった。

5. その他

表示, 適用範囲, 名称などについて議論されたが, 結論が出なかつた。

第7回 H型鋼ぐい鋼管ぐい JIS 原案分科会

開催日: 5月28日。出席者: 大崎主査, 他 25 名。

1. 鋼管ぐい原案の検討

品質, 試験, 検査の各項について審議を行なった。

2. 改正案のとりまとめ

幹事会社で討議結果をとりまとめ原案として次回提出する。

ただし, 標準寸法は一応ミリラウンドとインチの2本立てとした。

クリープ委員会

昭和44年度第1回クリープ試験分科会 開催日: 5月15日。出席者: 依副委員長, 他 30 名。

1. 第3回共通高温引張試験の実施方法について

実施にあつた希望が各委員より述べられた。試験鋼種, 実施方法などについては小委員会で詳細を検討し再度アンケートをとることになった。

2. 国際共通試験結果について

各試験機関で実施した 1000 時間までのデータのまとめの報告があつた。1000時間までのデータをイギリスの事務局に送付することとし, それより長時間のデータはまだ出ていないので, 出た段階で提出することとした。

3. クリープおよび高温引張試験データの収集について

データがかなり集まつたので, 小委員会でまとめにはいることになった。

4. スペシメンパンク材について

44年度の購入申込をうかがうことになった。

鉄鋼標準試料委員会

第28回委員会 開催日: 5月23日。出席者: 池上委員長, 他 19 名。

1. 6月26~28日 NBS で開かれる第1回標準物質国際会議に池上委員長が出席することになった。日本の標準試料のサンプルを NBS に寄贈するとともに海外に PR することになった。

2. 鉄鋼標準試料の在庫調査報告の後 '工具鋼シリーズ'の製造を決定した。

3. フェロアロイ標準試料をフェロアロイ協会に依頼して作成することになった。とりあえず FMnH, FCrF, FSi₂, Cr 鉍石, Mn 鉍石を製造することになった。

4. 酸化鉄標準試料を作成することになった。これは鉄鉍石分析専門分科会で鉄鉍石の全鉄分析の標準試料の1として酸化鉄を内定していることに対応するものである。純度 99% で 50g 入約50本を製造の予定である。

材料試験原子炉(JMTR)利用委員会

第11回委員会 開催日: 5月13日。出席者: 長谷川委員長, 他 24 名。

1. 原研大洗研究所から JMTR の状況説明が下記のごとく行なわれた。

JMTRの水洩れ発生のため稼動に入るのがかなり遅れているがカナルライニングの張替えなどを現在行なっており本年9月中に実働に入る予定であり45年末までに当委員会試験計画を終えたい旨説明があつた。

2. 当委員会からの試料の予定量全量が原研に納入完了したので今後委員会としては照射後の結果が出るまで文献による勉強会も平行して行なうことにし今回下記の2文献の紹介が行なわれた。

(1) Notch ductility properties of SM-1A reactor pressure vessel flowing the in-place annealing operation (NRL Report 6721)

(2) The effect of Residual element of 550°F irradiation response of selected pressure vessel steels and weldments (NRI, Report 6803)

資料委員会

第3回委員会 開催日: 5月9日。出席者: 草川委員長, 他 12 名。

1. BISITS Translations 1969 年度の申込状況の報告全冊購入: 8件 なお今後の注文方法の仕方部分購入: 7件について, 次回から具体計 14件案を出し検討することになった。

2. 資料委員会の業務について

情報化時代に対処するため, 本会のあり方について討

論されたが、今後ビジョンを掲げ具体化していく方向に決まった。

3. 「鉄と鋼」索引カードにアブストラクトを付ける件について

その論文にだれがアブストラクトを書くかが問題とされ、査読者、著者、協会の技術部員など意見が出されたが次回アブストラクトのフォーム案などとともに検討されることになった。

鉄鋼基礎共同研究会

微量元素部会

昭和44年度第1回部会(Vに関する研究会)

開催日: 5月13, 14日. 出席者: 今井部会長, 他34名.

1. 研究発表

(1) γ 鉄中におけるV炭化物および窒化物の溶解度に及ぼす Mn, Si, Cr, および Ni の影響 神鋼 小山

(2) オーステナイト域におけるV炭・窒化物の固溶析出現象と変態特性について 住金 大谷

(3) 低炭素鋼の冷間加工一焼鈍過程におよぼすVの影響(第1報) NKK 小指

(4) 低炭素バナジウム鋼の熱処理特性について

日新 森田

(5) V含有鋼のオーステナイト結晶粒度に及ぼす加熱速度の影響 阪大 荻野

(6) 微量 Nb-V 処理鋼の機械的性質と破壊の様相について 東大 荒木

(7) 製鋼用バナジウム添加剤について

日電工 前波

2. 部会運営方針について

(1) 「Vに関する研究」部会最終報告書

「鉄と鋼」論文集に一括して掲載することになった。また原稿作成の際は、部会での討論を幹事会にて編集し同時に掲載することになった。

(2) 秋期学会時討論会について

テーマ: 鋼材に及ぼすVの影響

座長: 今井部会長

運営: 微量元素部会が行なう。

金属学会、鉄鋼協会の共催とし、プログラムは「鉄と鋼」と「金属学会報」の両方、講演概要は「鉄と鋼」に掲載する。金属学会の会場では前刷を配布する。

第4回V分科会 開催日: 5月14日. 出席者: 久保田幹事, 他14名.

一特別研究費による共同研究計画の検討一

幹事会案が承認され最終的な実験計画が確立し、実験に着手することになった。

[テーマ] V析出物の分離定量法に関する研究

[内容] 含V鋼の機械的性質は微細な(1000Å以下)V析出物の挙動に大きく依存するが、この分離定量法は確立されておらず、理論的な解明を困難にしている。

そこでこの分離定量法の確立を目的として化学分離法と物理測定法(電顕による析出物体積測定、内耗による固溶C測定)を共通試料にて行ない比較検討する。

更に得られた分析値と機械的性質のつき合わせを行ないV析出物による強化機構を考察する。

化学分離法は共同研究会分析部会が担当し物理測定法および機械的性質の測定はV分科会が担当とする。

新入会員氏名

(昭和44年3月1日~4月30日)

維持 会 員							
コンカスト(株)		藤本 武	〃	斉田 雄三	日新製鋼(株)周南		
山九運輸機工(株)		坂本 正博	〃 八幡	松岡 正	〃		
正 会 員		白土 雅輝	〃	伊藤 雄三	日立金属(株)熊谷		
		船津 勝海	〃	石川 和久	〃 安来		
川鍋 正雄	富士製鉄(株)名古屋	小野山 征生	〃 光	江尻 弘	日本重化学工業(株)		
後藤 莞爾	〃	水沼 晋	〃 東京	山村 和昭	〃		
佐伯 正	〃	西村 武人	住友金属工業(株)	前田 直正	日本鋼管(株)京浜		
佐藤 一昭	〃		和歌山	伊藤 譲一	日本冶金工業(株)		
早野 成	〃	古米 正	〃	武尾 敬之助	住友電気工業(株)		
三木 徹夫	〃	山本 隆夫	〃	葉石 正喜	三菱製鋼(株)宇都宮		
水山 弥一郎	〃	津村 一雄	〃 製鋼所	角谷 勝嘉	東洋工業(株)		
山田 高義	〃	中居 修二	〃 中研	近藤 保夫	(株)日立製作所勝田		
吉川 誠治	〃	馬場 一敏	〃 鋼管	永井 秧	日本精線(株)		
木原 研司	〃 広畑	金子 隆	大同製鋼(株)洪川	西本 周二	日本ロール製造(株)		
福山 繁一	〃	山田 舜一郎	〃 知多	山尾 功	佐藤造機(株)		
山本 利樹	〃	和田 淳	〃 築地	新谷 与一郎	日本ステンレス(株)		
小野 沢昌男	〃 室蘭	老山 大輔	川崎製鉄(株)千葉	針生 享多	ヤンマーディーゼル		
滝沢 英郎	〃	戸村 寿孝	〃		(株)		
早稲田 孝	〃	中村 徹	(株)神戸製鋼所 神戸	木下 拓治	日本光学工業(株)		
大八木 八七	八幡製鉄(株)技研	西田 武史	〃	奥野 忠徳	(株)日向製錬所		
佐藤 憲夫	〃	山崎 競	大阪製鋼(株)	山崎 雅敏	日本高周波鋼業(株)		
立川 正彬	〃	山本 誠一	〃	中村 秀幸	三菱電機(株)		

今福 博	新明和工業(株)	児玉 和士	〃		理工研究科
竹内 清	中央電気工業(株)	甲村 省二	〃	関野 昭幸	〃
宇野 忠志	日本ザーモフィン(株)	佐久間誠也	〃	増田 千利	〃
平岡 英人	(株)三陽電機製作所	坂口 庄一	〃	溝部 道信	〃
加藤 幸男	北日本砂鉄鋳業(株)	鈴木 孝夫	〃	伊藤 充雄	関西大学大学院
前 義治	三菱金属(株)	名村 貞男	〃		工学研究科
高宮 克弥	播磨耐火煉瓦(株)	袴着 弘幸	〃	窪田 完二	〃
尾張谷正孝	佐世保重工業(株)	柳沢 一好	〃	徳珍 洸三	〃
田中 潔	日鍛バルブ(株)	山中 利隆	〃	伊東 威安	東京工業大学
森 忠夫	東京芝浦電気(株)	山本 幸郎	〃		金属工学科
永井 源行	和田特殊製鋼(株)	海老沢 猛	東北大学工学部	鈴木 英明	〃 大学院
金子 実	埼玉県鑄物機械工業 試験場		金属工学科	古城 勝彦	東京大学工学部
吉村美佐夫	スターライト工業(株)	大越 重俊	〃		冶金学科
佐藤長次郎	電気化学工業(株)	恩田 啓卓	〃	和田 仁	〃 大学院
小林 健三	三菱電機(株)	菅原 健	〃	近藤 拓士	大阪大学大学院
竹内 勝男	光洋精工(株)	杉崎 勝	〃	出向井 登	〃
中本 康夫	山口県商工指導 センター	竹内 泉	〃	松山 豊和	北海道大学工学部
		日野 光元	〃	山田 哲夫	名古屋大学大学院
		山村 稔	〃		工学研究科
板橋富二郎	東京大学	早稲田嘉夫	〃 大学院工学研究科	内記 文夫	富山大学工学部金属科
坂本 宏	東北大学	牛嶋 誠	九州大学大学院	岩崎 広二	千葉工業大学大学院
中川 洋	東京理科大学	山田 昇	〃	須賀 久明	名古屋工業大学大学院
藤木 俊介	津山工業高等専門学校	川野 和雄	九州大学工学部	山崎 安弘	慶応大学工学部
野口 努	東淀工業高等学校		鉄鋼冶金	深迫 紀夫	熊本大学工学部
金 水 泳	早稲田大学	平山 勝久	〃	井上 明久	姫路工業大学
学 生 会 員		松島 雅章	〃		外国会員
金原 光男	鉄鋼短期大学	村上 文雄	〃	Byoung Whie Lee	Australia
黒木 幸夫	〃	奥村 宏道	早稲田大学大学院	Lee Kwok Too	Hong Kong

応力測定に関する講習会

主 催 日本材料学会
協 賛 応用物理学会, 精機学会, 土木学会, 日本造船学会, 日本機械学会, 日本金属学会,
日本建築学会, 日本航空宇宙学会, 日本鉄鋼協会, 日本非破壊検査協会

期 日 昭和44年8月19日(火)~22日(金)

会 場 電機大学 (東京都千代田区神田錦町2の2) (予定)

題目および講師 (予定)

第1日

10:00 モワレ法について 立命大理工 村 上 裕 則
13:00 X線応力測定法 京大工 平 修

第2日

10:00 光弾性 慶応大工 国 尾 武
13:00 X線による微視的ひずみの測定 名工大 林 建 吉

第3日, 第4日 実習

9:30~17:00 X線応力測定法, X線による微視的ひずみの測定,
モワレ法, 光弾性

定員, 講義および実習: 50名 講義のみ左記のほかに 100 名

聴講料, 講義および実習: 会 員 10,000 円 非会員 12,000 円

講義のみ 会 員 4,500 円 非会員 5,000 円

申込締切 昭和44年8月10日(日)

申込方法 随意用紙に参加希望の区別, 氏名, 所属, 連絡先, 履修書, 希望の有無を明記の上聴講料をそ
えて下記宛お申し込み下さい。(ただし「X線応力測定法」をお持ちでない方は別に代金を添
えること)

申 込 先 日本材料学会 講習会係 (京都市左京区吉田泉殿町1の101 TEL 761-5321 代表)
振替口座 京都 26625 番